

戦略的環境アセスメント(SEA) 温暖化対策ツールとしての 可能性と課題

途上国における温暖化対策~責任ある支援とは? 2009年3月11日 小林隼人



戦略的環境アセスメント

- 温暖化対策ツールとしての可能性と課題
- 1. 戦略的環境アセスメント(SEA) とは
- 2. 世界銀行でのSEA
- 3. パイロットプログラム
- 4. 温暖化対策ツールとしてのSEA
- 5. 戦略的な温暖化対策の実現にむけて



戦略的環境アセスメント(SEA)

- 政策(Policy), 計画 (Plan), プログラム (Program)," PPP を対象とする環境アセスメント
- 早い段階からより広範な環境配慮を行うための 仕組みとして期待
- 先進国のみならず、途上国でも導入が進む
 - 開発援助機関での知見の共有 OECD DAC. *SEA Guideline*. 2006
- 日本では地方自治体レベルでの導入実績



世界銀行でのSEA (1)

An analytical and participatory approach

for mainstreaming and upstreaming environmental and social considerations in policies, plans and programs to influence decision-making and implementation processes at the strategic leverafeguards/EA

Environment Strategy (2001)

OP/BP 8.60 (2004)



世界銀行でのSEA (2)

- ,影響評価
- 技術的解決策
- プロジェクト
- 政策・ガバナンス・ キャパシティ • トロトなの味での
- より上位段階での
- 環境配慮
- *政策融資 (DPL)の増加に対応



世界銀行でのSEA (3)

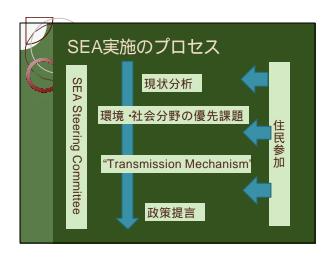
パイロットプログラム (2005 –)

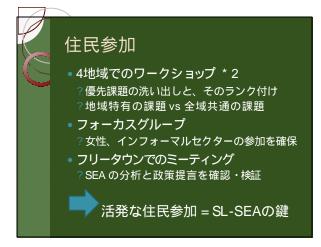
- ガバナンスに焦点を当てた 新しいアプローチ (institutions-centered)
- 異なるセクター、異なる大陸でテスト
 - ?ケニア、シエラレオネ、中国、パキスタン etc.
 - ?森林、運輸、採取産業
- 温暖化 SEA 今後実施の可能性あり

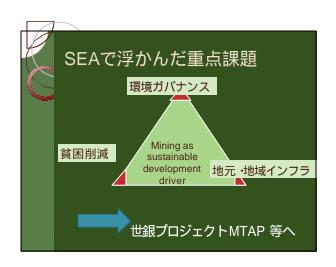














戦略的」なSEAとは

- 広範なステークホルダーの参加
 - ?住民参加のやり方に配慮
 - ?社会的支持 改革実施の鍵
 - ?エリート層の "capture" を防ぐ
- 幅広い分析対象
- 実際のプロジェクトとの連携



政策対話の場としての SEA



温暖化対策としての可能性

- Adaptation/適応
 - ?特に脆弱なグループに焦点
 - ?十分な適応策が取られているか
 - ? 現地のキャパシティとのギャップ
- ?大規模インフラ計画 将来の温暖化影響
- Mitigation/ 緩和
 - ?現地のニーズと合っているか? (CDM)
 - ? コスト& ベネフィット(biofuel/food security)



有効なSEA実施に向けた課題

- SEAの提言実施
- ?分析のための分析で終わらないために
- ?現地の政治プロセス (政権交代など)の影響
- 現地のキャパシティ強化
 - ?途上国の温暖化データ整備
 - ?環境社会配慮の導入の推進
 - ?現地ニーズにあった支援の実施
- 分野横断的 = 縦横の連携



戦略的な温暖化対策のために

- 住民参加
- ?貧困層の優先的課題
- ?合意と実施への支持取り付け
- ガバナンス/ Institutions
 - ?ステークホルダーのインセンティブ
- ?複雑な意思決定プロセスへの配慮
- 包括的な分析枠組み
- ?環境・食料・エネルギー
- ?都市開発·貧困削減



Thank you!

小林隼人/ Hayato Kobayashi Development Planning Unit The Bartlett Faculty of the Built Environment University College London Email: hayato.kobayashi@ucl.ac.uk